

# POWER FILE ★ 1143

FM  
94.9



## 海の京都調査隊～海の京都の魅力を調査・発見せよ～

### 夏休みの子どもたちが、海の魅力と課題を探しに、京都北部へ！

豊かな海を未来へと引き継ぐために、日本財団の旗振りのもとオールジャパンで推進されている「海と日本プロジェクト」。その一環として、子どもたちが海の調査隊員となり、京都の海の魅力と課題を探るイベント「海の京都調査隊～海の京都の魅力を調査・発見せよ～」が、7月31日(火)・8月1日(水)に開催されました。

京都市の立命館小学校の児童20名が、調査ノートを手にも海の京都エリアを訪ねるバスツアー。「羽川英樹の土曜は旅気分」(土/8時30分～11時55分)のラジオカーリポーターとしておなじみの三崎智子も同行しました。

調査のキーワードは「循環」。果たして調査隊は、どんな学びと発見に出会ったのでしょうか。子どもたちの夏の2DAYSをレポートします。

### まずは舟屋の町、伊根町へ。海とともにある暮らしの風景と営み。

早朝に京都を出発した一行は、舟屋が建ち並ぶ独特の景観で知られる伊根町へ。まずは伊根町観光協会の吉田さんに話を聞きました。1階は船のガレージ、2階は居室という舟屋の特徴を聞き、海と直結した伊根町の暮らしを実感します。その後、高台にある道の駅に移動して、実際に伊根湾の形状や海沿いに並ぶ舟屋を見学しました。

昼食後は、本格的な伊根町探検。調査隊は4班に分かれて、伊根町の自然と営みを体験しました。見学した伊根独自の「もんどり漁」は、魚のあらやわたを入れたかごを舟屋の軒先に仕掛けておく漁法。捕れた魚を食した後は、残ったあらを翌日の仕掛けに使う…。そんな循環の仕組みに感心したり、水中ドローン体験ではしゃいだり、生き生きとした表情を見せる子どもたち。発見した海の「循環」について、班ごとに発表する調査報告会も行いました。

その後は、翌日の定置網漁体験に備えて、京丹後市の三津漁港へ移動。ここで、京都府水産事務所の鈴木さんと三津

漁業生産組合の松本さんから、京都府の漁業について聞きました。私たちの食卓にのぼる魚。その恵みを後世にも残すため、京丹後市の定置網漁では網の目を粗くして小さな魚が獲れないようにしたり、規定サイズ以下の魚は海へ逃がしたりと、海の資源を守る工夫が凝らされています。さらに定置網漁の仕組みや、獲れる魚の種類なども学び、翌日の体験に備えました。

### 大量の魚に大興奮！子どもたちが、漁師さんのお仕事を体験。

日が昇る前に起き出した2日目。子どもたちはライフジャケットを着用し、京丹後の海へ繰り出しました。乗り込んだ船が定置網を仕掛けた沖合いに着くと、網が引き揚げられます。大きな魚はタモですくって水槽へ。見たこともない大量の魚に子どもたちは大興奮です。

漁港に戻ると、調査隊に大仕事がまかされました。それはイワシの選別。ひとくちにイワシといっても、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ…と、さまざまな種類があります。それらの特徴を覚え、顔や模様などを見極めて仕分ける作業

は、まさに漁師さんのお仕事体験です。ひと仕事終えて、ようやく朝食。おいしいごはんではエネルギーをチャージしたら、今度は調査報告会です。班ごとのミーティングの後、それぞれが気づいたこと、考えたことを発表しました。海の豊かな恵みと、その環境を守る人の努力にふれて、「循環」をテーマにした素晴らしい発表が続きました。

その後は鳴き砂で有名な琴引浜へ。美しい海岸で水遊びして、子どもたちは大はしゃぎ。でも、このきれいな砂浜も光を浴びてきらきら輝く海も、誰かによって守られていることを子どもたちはもう知っています。

丹後で最後の昼食をとり、一行は帰路につきました。京都で解散後も、調査隊のメンバーはツアーでの学びをレポートにまとめ、後日の調査報告会で発表する予定です。子どもたちをひと回り大きく、たくましく成長させた夏の二日間となりました。



調査のキーワードは「循環」。果たして調査隊は、どんな学びと発見に出会ったのでしょうか。子どもたちの夏の2DAYSをレポートします。



早朝に京都を出発した一行は、舟屋が建ち並ぶ独特の景観で知られる伊根町へ。まずは伊根町観光協会の吉田さんに話を聞きました。1階は船のガレージ、2階は居室という舟屋の特徴を聞き、海と直結した伊根町の暮らしを実感します。その後、高台にある道の駅に移動して、実際に伊根湾の形状や海沿いに並ぶ舟屋を見学しました。



その後は、翌日の定置網漁体験に備えて、京丹後市の三津漁港へ移動。ここで、京都府水産事務所の鈴木さんと三津

